

「生活を豊かにしようとする意識」を育む学び ～家庭科を深く学ぶ～

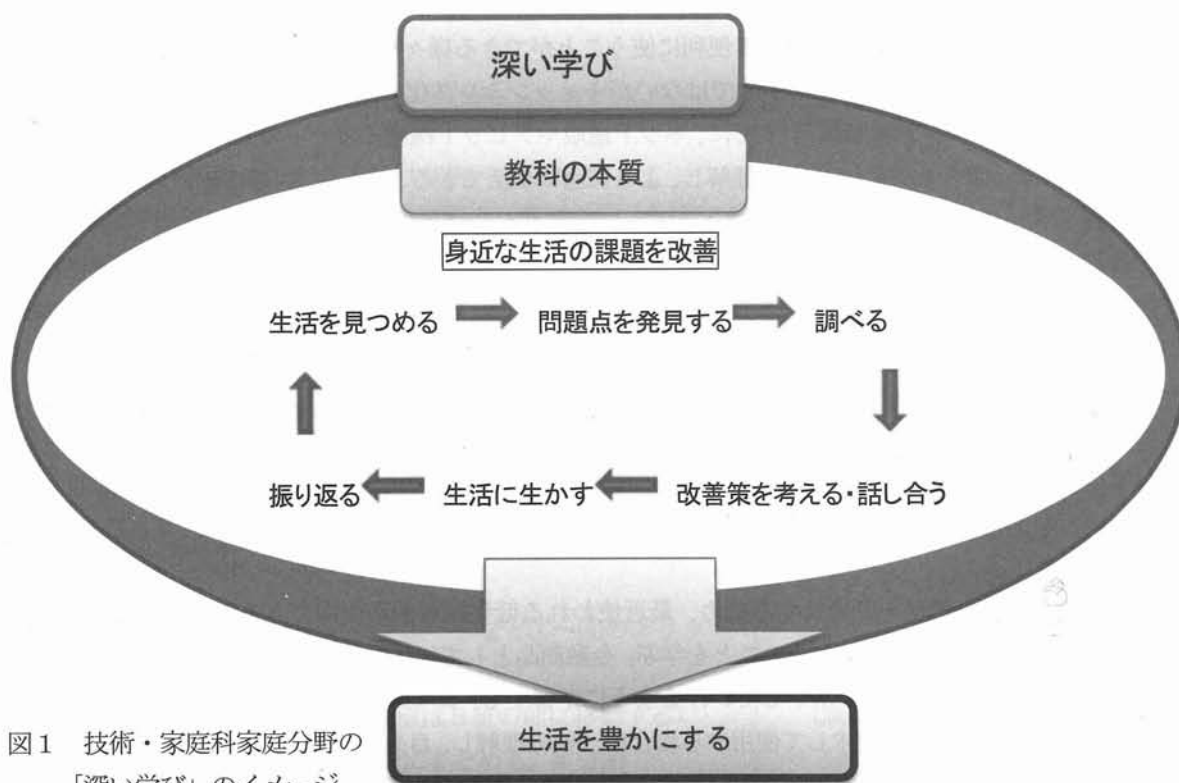
提案者 石津みどり

【キーワード】 金融教育 クレジット 三者間契約 新学習指導要領

1. 技術・家庭科(家庭分野)における「深い学び」と教科の本質

本校の「技術・家庭科（家庭分野）における『深い学び』」とは、生活場面に直面した内容における課題解決を繰り返すことで得られると考える。つまり、技術・家庭科（家庭分野）では、健康で快適な生活を営むために、日常の中に存在する生活上の様々な課題を見出し、「自ら工夫して改善することを目指そうとする意識」を育てることを目指している。その課題に関する知識や技能をより深く理解することで様々な工夫ができ、結果として生活が豊かになる体験を積み重ねる。それらの生活を工夫し改善しようとする意識を、主体的に持たせることをねらう。

技術・家庭科（家庭分野）においては、衣食住、家族関係、環境教育、消費者教育など、身近な生活の課題を取り上げ、体験的に問題点を解決し、生活を豊かにする意識を育む。そのイメージを図1に示す。



2. 教科主題設定の理由

中学校の技術・家庭科、家庭分野の消費生活の領域においては、消費者の権利と責任や販売方法の特徴や、生活に必要な物資・サービスの適切な選択、購入及び活用を学ぶ。しかし、通信販売の多様化と普及や販売のキャッシュレス化で、クレジットなどの三者間契約について学ぶ必要がでてきた。新学習指導要領でも、授業

でクレジットカードを取り扱うことや、購入方法と支払いの特徴を知って計画的な金銭管理の必要性を理解することなど、購入についてよく考えて選択するための知識や技能を習得するように示している。

今回の授業で、題材として取り上げた消費生活における金銭管理は、現在、生徒がすぐにも必要となる知識であり、生活上の解決すべき課題である。この題材について深く学ぶことこそ、家庭科の「深い学び」といえよう。

近年、留学や転勤等で、海外や国内で単身生活をする未成年が増えてきている。国内外で未成年が親と離れて生活すると、未成年でありながらカード等を使ったキャッシュレスの消費生活を体験する機会が生じる。本校でもキャッシュレスで日常の買い物をする生徒がいるが、グローバル化が進むことによって、近い将来、日本でも未成年のカード等の利用やキャッシュレスの販売方法が増え、未成年者がクレジットカードと同様に使用できる海外専用プリペイドカードや学生用のデビットカードの利用が日常化する可能性がある。それによって、生じる社会の変化による消費生活トラブルの多様化と被害者の低年齢化も鑑み、クレジットカードなど三者間契約の仕組みと消費者被害についての知識が、中学生段階から必要になるのである。

そこで、「クレジットカード利用について考える」の授業を行う。この授業では、生徒が話し合って意見を交換し、振り返りシートへの記述をすることで自分のこととして捉え、主体的に自身の生活に活かそうとする意識を育てようとするものである。

3. 「深い学び」を創造するための工夫

本題材は、生活を営む上で重要な消費生活に関わるものとして、クレジットカードなど三者間契約の仕組みを扱うが、実際の生活で活用する場合にはリスクをはらんでいる。そのリスクと具体的な消費者被害例について授業でしっかり学び、時には現金より便利に使うことができる様々な販売及び支払い方法について学ぶ。特に、その中では、契約をまだ結べる年齢ではないがキャッシュレス化の社会生活に備えて、クレジットなどの三者間契約の仕組みについて学ぶ。すでに、ネット通販やデビット機能のカードの知識をもっている生徒がいるが、クレジットサービスのリスクを理解し、より快適に生活できるように必要な知識や技能の情報を収集して、物資・サービスの購入方法を選択できるように学習する。

一般的に、学生が海外留学中の生活のためにデビットカードを使用する場合もあるが、共稼ぎの増えた近年では、普段の買い物をキャッシュレスで中学生が日常的に行うこともある。大金を現金で持つには紛失の恐れがあり、デビットカード紛失の際に発行元に連絡をとることでお金を失うことが避けられる利点を考えてカードの活用をしている場合がある。月々決まった金額を入金した銀行口座から、購入時に直接引き落とされるデビットカードを利用するのは、お金を使いすぎてしまわないようにとの配慮と、購入と同時に通帳の口座残高が減ることでキャッシュレスによる金銭感覚の喪失を防ぐねらいがある。預金通帳に記録が残りに、小銭もたまらないという利点もあるが、決められた金額の中で何をどのように購入するかをよく考え、工夫して購入することができる。

できるだけ最新の情報を話題にするため、最近使われる低年齢層から使用できるデビットカードやクレジットカードを取り上げ、金融やお金のことを学ぶ。金融商品としては、16歳から使えるものが出ているので、仕組みやリスクを学び、生活に活かしていけるように学習する。まずカードの種類の確認をし、必要に迫られて使用する場合と便利さを追求して使用する場合について理解し、自分が使うとしたら、それが自分にとって快適なもので、活用したいものであるかを考え、話し合う。知識を理解したうえで、自覚的に考え、自分の考えを話し合うことで、振り返り、学びあい、深め合う。

4. 授業実践

- ①. 対象 東京学芸大学附属小金井中学校3年（男子20名 女子20名 計40名）
- ②. 単元名 クレジットカード利用について考える
- ③. 単元の目標

- ・クレジットカードを含め、購入時のカード利用について、特徴とその仕組みを理解する。
- ・消費生活のトラブルについて学び、カード利用のリスクを理解する。
- ・自分の生活スタイルを考えて、カードの利用を考えることができる。
- ・購入に関する知識や情報を収集し、目的や方法をよく考えて購入することが大切だと理解する。

④. 単元の指導計画

「消費者生活」領域のクレジットに関する授業計画

	学習内容
1 次	様々なカードの特徴を知り、支払いなどの利用方法について考える。クレジットカードについて学び、三者間契約の仕組みを理解する。(支払い方法についての調査を課題にする)
2 次	クレジットカードなどの支払いにおけるリスクを考え、自分が生活する時の支払方法(クレジット(一括払い)、クレジット(リボ払い)、現金、デビット)を何にしたいか考える。本時

⑤. 本時の指導計画

<目標>

- ・自分の生活スタイルを考えて、クレジットカードの利用を考えることができる
- ・購入時の支払いに関する知識や情報を収集し、目的や方法をよく考えて購入や支払いをすることが大切だと理解する。

<本時の指導案>

	学習内容	指導上の留意点等 ☆予想される生徒の反応
導 入 8 分	○学習を振り返る。 ・カードの種類とクレジットの仕組み、利用方法 ○家庭の生活に関する支払い(電気料金、電話料金、食材)がどのような方法かを聞く。(①～④他で挙手)	・前回の授業ワークシート持参 ☆電話とセットが安い。 ☆ポイントが付くからクレジットにしている。
展 開 34 分	○問題について、今の考えを聞く。 (問題: 家族に家計の一部を任せられました。食事の材料を月に6回(1回当たり3000円くらい)ほど、2万円を限度にスーパーで買い物をします。1ヵ月分の費用を一度に受け取ります。支払いは、①～④他の、どのような支払いの方が良いですか。生活者の視点に立って考え、理由や注意点を述べましょう。) ○クレジットカードやデビットカードなど①～④のメリット ・デメリットなどを班で共有する。 (8人のグループを作る。5班は8班の前に移動する) ・同じものを調べた二人で用紙にまとめる。8分間 ・班で①～④の内容を情報交換。16分間 (①から順に4人が班で発表。) ① クレジット(一括払いのメリット、デメリット) ② クレジット(リボ払いのリスクについて) ③ 現金(現金支払いのメリットデメリット) ④ デビットカードについて)	・挙手で問題の答えを確認し、各自のワークシートに記入。 ・調べたのが一人の時は調べたことを整理して用紙に記入。文字は5センチ程度で見やすく、短時間で共有できる分量にする。 ・多くの支払い方法について班で共有するために、二人分の調査内容をあわせて班で発表する。 (課題ができていない生徒や調べが十分でない生徒が少数いても対応) ・他者の調べてきたことを聞いて自分の考えを整理する。 ・①～④の発表内容を聞いてワークシートに整理する。(発表を聞いて、疑問点があれば、質問する。) ・問題の支払いは①～④以外でもよい。

	○上記の問題で支払いをするとしたら、①～④他のどれがいいかを考えて、ワークシートに記入する。(班で相談してから記入してもよい。発表者を班で決めておく) 5分間	・利点やリスクなどについて考える。
	クレジット利用について考える	
	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループ代表が個人の考えとして選んだものと理由やメリット・デメリットを発表。5分間 ・発表の中で、勘違いがないか確認し、あれば補足する。生徒または指導者が説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ネット販売を利用している。 ☆現金を持ち歩かなくてもいい。 ☆お金がなくても買える。 ☆知らないうちに高額を使ってしまう。
まとめ 8分	<ul style="list-style-type: none"> ・どの支払方法を選んだのか発表する。(理由なども説明する。) ・これからの消費生活とお金の管理についてのまとめ(支払い方の利便性とリスクのバランスを考え、自分に合った支払い方を考える。利用することでその仕組みが発展していくことを理解する。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活スタイルをイメージできているか。 ・クレジットを含めた支払方法とリスクが理解できているか。 ・消費者として、社会の一員であることが分かったか。

5. おわりに

本校の研究は3年目を迎えた。家庭科にとっての「深い学び」は、生活者として、課題を見出し、解決していこうとする力を身に付けることが大切だと考えるので、授業の本質や教科の「深い学び」については、今後も家庭科として研究を重ねていく。消費者教育の一環として学ぶクレジットを含む三者間契約は、これからの消費者の基礎知識として必須である。今回の実践は、新学習指導要領で取り扱う内容を先駆けて行ったものだが、家庭科を深く学ぶ工夫として、生徒が自分事と感ずることができるような内容を扱った。

お金の情報は生活に必要であるが、10年20年とたった将来の生活では、中学校で学んだ時とは社会は様変わりしてしまい、知識としては役立てることができない可能性がある。現在学んでいることを覚えるのではなく、現在のことを理解するための情報収集の手立てを学ぶことが重要である。つまり、新しい社会のシステムの中で自分が自分の望む生活をするために、どのように情報を得ていくかを学ぶ、「生きる力」の習得がねらいである。知識の蓄積を重視するのではなく、変わりゆく社会に対応できるように、手法や題材を工夫することで記憶に残り、将来に役立つ授業を実践していく。

ビットコインや顔認証での購入が可能になり、購入の手続きが簡略的になる一方、ネット販売におけるリスクやシステムの複雑化があり、トラブルに巻き込まれるケースが増えている。過去の事例を紹介することはできるが、どんどん新しい手口の犯罪が起り、トラブルの多様化には、知識だけでは太刀打ちできないことが起こる。そのため、トラブルを避けるためにも、自分で情報を得て積極的に生活を営むことが望まれる。

クレジットや新しい購入方法を利用することにより、それらの購入方法やサービスが社会上で定着し、発展していくことを生徒が理解し、新しいシステムやそれにかかわる情報を消費者として積極的に収集し活用しなければ、利便性と特典の恩恵を与えることはできないであろう。授業では、生活の課題解決を積み重ね、家庭科を深く学ぶことで、生徒が社会生活を賢く営めるような、実生活に通用する「生きる力」を身につけさせたい。

[参考文献]

- ・東京学芸大学・みずほフィナンシャルグループ 金融教育共同研究プロジェクト(2011) 考えてみよう これからのくらしとお金 編集協力 教育出版株式会社
- ・東京学芸大学・みずほフィナンシャルグループ 金融教育共同研究プロジェクト(2017) 考えてみよう これからのくらしとお金【改訂版】 編集協力 教育出版株式会社
- ・金融広報中央委員会 (2014) 金融教育プログラム【改訂版】